



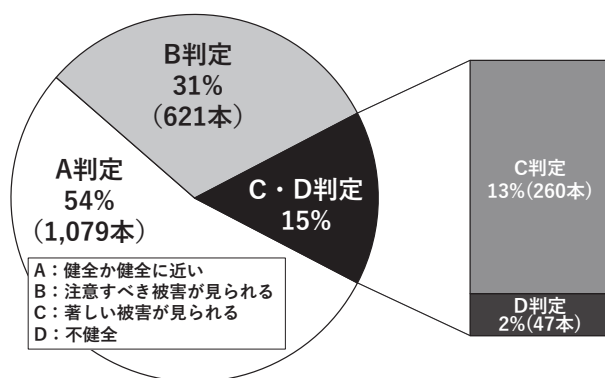
「目黒区のサクラ」 さくら咲き心地よいまちずっとめぐる

目黒区には、都内有数の桜の名所となっている目黒川沿いの桜をはじめ多くの桜がありますが、そのうちの半数ほどが老齢化などによって樹勢（木の勢い）の低下や倒木などが懸念されています。区では目黒の桜の風景を後世に伝えていくため、「めぐるサクラ再生プロジェクト」として目黒のサクラ保全事業を行っています。



◆めぐるサクラ再生プロジェクト 目黒区の桜の現状

目黒区内の公園や緑道、道路緑地などには現在約2200本の桜があります。そのうち約1000本があと数年で樹齢60年を迎え、老齢化などによる樹勢の低下や倒木などが懸念されています。目黒区では令和3年度までに区内の公園、緑道、道路緑地、児童遊園の桜計1907本の樹木診断を実施しました。診断の結果は、キノコの発生や枯れ枝が多いなどの問題から、特に手入れが必要な桜（C判定、D判定）が全体の15パーセントを占めるというものになりました。こうした桜の課題が以前からあったことから、「めぐるサクラ再生プロジェクト」はスタート



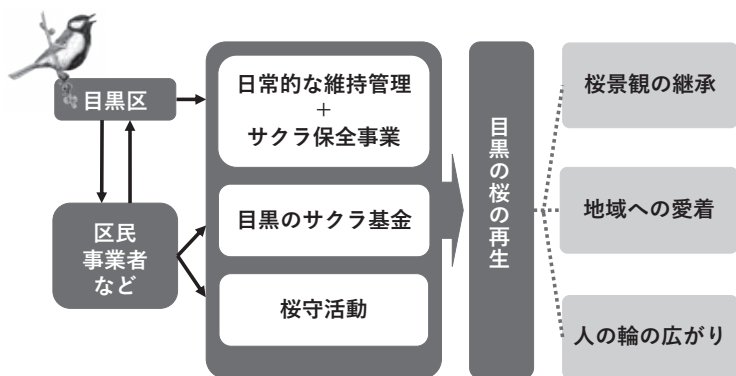
区内の桜、令和3年度までの樹木診断結果

しました。

めぐるサクラ再生 プロジェクトの取り組み

目黒区では平成26年3月に「目黒のサクラ基金」（5ページ参照）を設立しました。皆様からいただいた寄付金を活用し、平成27年度から「サクラ保全事業」に取り組んでいます。「めぐるサクラ再生プロジェクト」は、目黒区が区民や事業者の方々とともに、桜の樹木診断や植替えなどを行う「サクラ保全事業」や地域の方に桜を見守っていただく「桜守活動」（5ページ参照）を通して目黒の桜の再生を実現するためのプロジェクトです。区内外の皆様桜を通して地域への愛着を深めていただくことで人の輪が広がり、皆様と

ともに目黒の桜景観を後世へとつないでいくことを目指しています。



めぐるサクラ再生プロジェクト

桜景観の将来像 「サクラ再生実行計画」の 作成

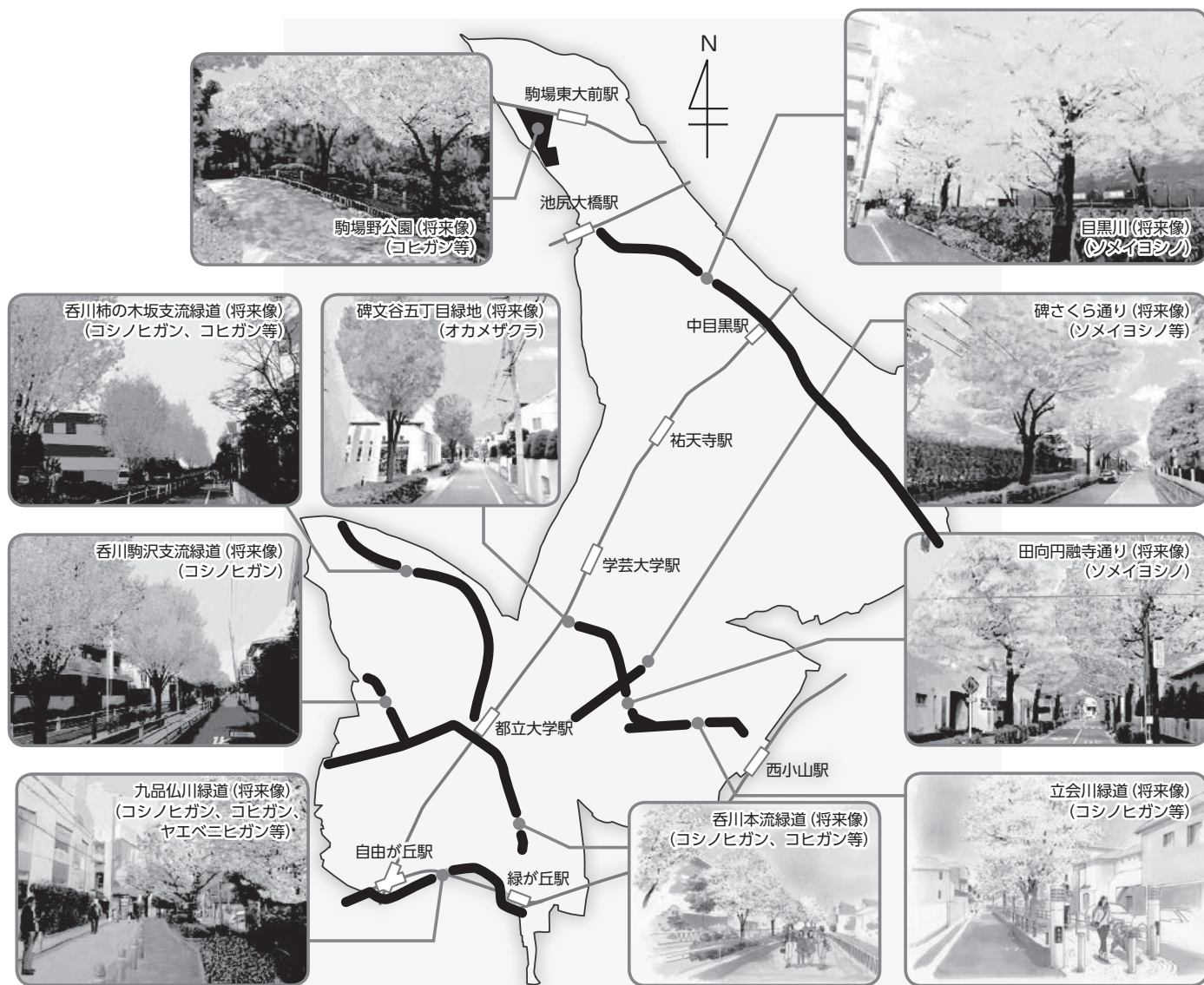
「サクラ保全事業」の取り組みの1つに「サクラ再生実行計画」の作成があります。区が管理する公園、緑道、道路緑地等の桜について各エリアの桜の状況や抱えている課題を、樹木診断の結果などをもとに把握した上で、どのような桜の風景を伝えていくか、植替えの品種や樹木の間隔など地域にあった将来像を、地域の皆様との現地調査会開催やいただいたご意見を反映して作成しています。

目黒区ではこれまでに、駒場野公園、碑文谷五丁目緑地、呑川柿の木坂支流緑道、呑川駒沢支流緑道、九品仏川緑道、目黒川、碑さくら通り、田向円融寺通り、呑川本流緑道、立会川緑道の10カ所と児童遊園で、計画を作成しました。

区では、計画をもとに今ある桜を保全しながら、植替えも行っています。



サクラ再生実行計画の詳細はホームページからご覧いただけます。



サクラ再生実行計画（児童遊園を除く10カ所）

◆目黒川の桜並木

護岸工事をきつかけに 植えられた目黒川の桜

目黒川沿いには約800本の桜があり、毎年お花見の時期には多くの人が訪れます。この桜並木は昭和2年に行われた護岸工事（目黒川改修工事）の際、まちの風景を後世に残すため、地域の人々が両岸一帯に桜を植えたことが始まりです。

度重なる目黒川の洪水により桜の根が洗われて、木が枯れてしまうこともありましたが、補植や、継続的な維持管理が行われ、その景観が保たれてきました。昭和54年の氾濫で浸水被害が多発したために護岸工事が行われることになりましたが、植替えに耐えられる桜を別の場所に移植して再度植え直し、残りの区間に若木を植栽することにより、目黒川の桜景観を保ちました。このときに植えられた桜が現在もほとんど残っています。今植えられている桜は世代交代を重ね3代目といわれています。



桜樹記念碑

現在、南部橋の近くに建つ「桜樹記念碑」は、昭和11年に西郷従徳をはじめとする有志により建てられました。もとは目黒橋付近に建てられていましたが、昭和の護岸工事に伴い、現在の場所に移設されました。

目黒川の桜の課題

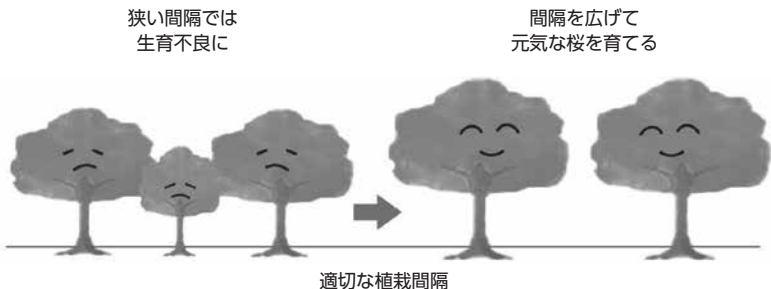
平成27年度に目黒川の桜782本について樹木診断を行いました。その結果、全体の約9割はA判定の「健全か健全に近い」でしたが、4本の樹木がD判定の「不健全」となりました。4本のうちの大本2本に大きな心材腐朽があり、若木2本に日照不足による生育不良が見られました。心材腐朽が拡大すると幹が折損する危険があり、人への被害が生じる可能性もあります。また日当たりの良い河川側では、生育が良好で肥大化した幹や大枝が、柵や護岸に接触して構造物を破損する恐れもあります。他にも桜の根が深く張ることができずに表層近くに伸びて、縁

石や舗装を持ち上げ歩行に支障をきたしています。

目黒川のサクラ再生 実行計画

目黒川のサクラ再生実行計画では、その将来像を「地域のシンボルとなっているソメイヨシノによる桜並木景観を将来にわたって引き継ぐ」としました。現在の桜を健全に育てて、できる限り長く残していきたい、倒木の危険が生じた樹木については、周辺環境に合わせてソメイヨシノを中心とした植替えを行います。

具体的な取組の1つには、適切な植栽間隔を確保できるように植替えを行っていくというものがあります。現在目黒川の桜は約6mの間隔で植栽されていますが、大型のソメイヨシノでは隣り合う枝同士がぶつかってしまい木の生育には良くありません。今後植え替える場合には、同じ場所に補植せず、植栽間隔が8～10mになるように調整します。他にも「施肥や土壌改良を行う」「枯枝、衰弱した枝、伸びすぎた枝は定期的に剪定して樹形を整える」といった取り組みを行います。



適切な植栽間隔



目黒川の桜並木の将来像

◆「目黒のサクラ基金」と「桜守活動」

ふるさと目黒の桜を後世に
伝える「目黒のサクラ基金」

「目黒のサクラ基金」への
寄付の仕方と記念品

平成26年に設立した「目黒のサクラ基金」は、目黒区の桜に愛着を持ってくださる方々とともに桜の保全活動に

「目黒のサクラ基金」への寄付には次の方法があります。

取り組み、ふるさと目黒の桜を後世に伝えていくための基金です。お寄せいただいた寄付は、区内の公園や緑道、

●ふるさと納税ポータルサイトから寄付する ポータルサイトの目黒区の

街路樹等の桜の樹木診断や、生育環境の改善、植替え等の関連事業に使わせていただいています。1本の桜を植え替えるためには、約100万円かかります。寄付金の実績は次のようになります。

●郵便局から振り込む 目黒区総合庁舎本館6階 都市整備部みどり土木政策課窓口においてあるリーフレットの「払込取扱票」に必要事項を記入してお近くの郵便局（ゆうちょ銀行）からお振込ください。リーフレットの郵送ご希望はみどり土木政策課（電話03-15722-1974）へ。窓口で現金による寄付もできます。

平成25年度：78万7000円
平成26年度：325万768円
平成27年度：300万3007円
平成28年度：259万8938円
平成29年度：338万3745円
平成30年度：906万7973円
令和元年度：1157万9618円
令和2年度：1182万9183円
令和3年度：3950万2154円



寄付金を活用した桜の樹木診断

ふるさとチョイス
目黒区のページ
<https://www.furusato-tax.jp/city/product/13110>



ふるさとパレット
目黒区のページ
<https://tokyu-furusato.jp/city/detail/131105>



地域の皆様とともに 桜を守る「桜守活動」

目黒区では、地域の方が日常的に桜を見守り保全していくボランティア活動、桜守活動を重要と考え、その立ち上げに向けた取り組みを進めています。桜守活動の主な活動例としては、桜の根元を通行による踏み固めから守るための「保護柵づくり」、桜に親しめるような「樹名板づくり」、桜の健康状態を把握する「花芽観察」などがあります。



サクラストラップ

「目黒のサクラ基金」に1万円以上の寄付をいただいた個人・法人・グループに、目黒川の桜の伐採材を活用して作製した、桜の花がモチーフの「サクラストラップ」を1個、記念品として贈呈します（ふるさと納税の返礼品を希望される方は除く）。

区では、地域の皆様はこの活動に親しんでいただくため、今年度から桜守活動体験会を開催しています。5月には桜に肥料を施す「施肥体験」、10月には樹木匠の解説を聞きながら桜の診断をする「樹木診断体験」を行います。今後も体験会の開催を予定していますので、皆様ぜひご参加ください。



樹木診断体験



施肥体験